



けいりょう

IBARAKI

2015 第3号

平成27年10月20日発行

発行

一般社団法人 茨城県計量協会

水戸市三の丸3-14-3

電話 029-225-7973

FAX 029-225-7974

<http://www15.plala.or.jp/ibakeikyou/>



平成27年度

会員企業紹介

勝田環境株式会社

代表取締役 望月 福男

「勝田環境（株）」は、昭和三十六年九月に「勝田環境衛生事業」として、一般廃棄物・し尿の収集運搬業、排水設備業、浄化槽清掃業及び維持管理業を旧勝田市で始めました。

平成三年四月には、産業廃棄物の中間処理業務（破碎、溶融・樹脂溶融を指し、許可の対象外の容量・焼却）を開始し、環境と地域に寄り添った事業を進めてきました。平成九年七月に焼却施設の更新を計画し、同時に焼却炉のトップメーカーである株式会社タクマの参画を得て、焼却処理だけではなく、廃家電製品等を破碎し有価物を分別高度リサイクルする複合処理施設「（株）カツタ」を設立しました。その後、平成十五年八月にも株式会社タクマの参画を得て、発電施設「（株）バイオパワー

勝田」が誕生し、木くずを燃料にして発電を行うバイオマス発電事業をスタートさせました。そして、廃棄物のリサイクルからエネルギー発電へと事業を展開させていく事で、廃棄物を循環資源として利用していく「循環型社会」に貢献する勝田環境グループへと成長しました。

今、全ての企業が考えなければならぬ問題に、地球温暖化が有ります。地球温暖化は、温室効果ガスが原因で起こる大気や海洋の平均温度が長期的に上昇する現象で、二酸化炭素・メタンなどの温室効果ガスが最も影響を与えていると言われています。当グループでは、廃棄物を運搬し、選別を行った上で木材をチップ化し、リサイクルに適さないチップを発電施設へと運び、一時間に4,990kwの発電をし、場内消費電力を除いた4,300kwを特定規模電気事業者に売電



することで、カーボンニュートラル（排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素が同じ量の概念）を実現しています。

このように、廃棄物処理を入り口から出口までトータルに担える点に、当グループ最大の強みがあります。廃棄物を運搬する機能、廃棄物を破碎して種類別に選別しリサイクルする機能、そして、リサイクル原料に適さない木くずを発電施設で、発電ボイラの燃料として再利用する機能等、地域密着型の企業として、今後も循環型社会の完成に貢献する事が、勝田環境グループの社会的使命である

と認識しています。
最後になりますが、毎年九月には地域の方々と住民懇談会を開き、色々な意見を頂いております。ご指導頂いた事や要望を大事にしながら、これからも「勝田環境（株）」は、勝田環境グループの中心として、地域の方々と共に成長し続けていけたらと思います。